



北極のペンギンの話

終戦直後の昭和20年、ミナミは戎橋筋。モノのない時代ではありましたが、ここに「子どもや女性だけでも冷たいものを!」と東奔西走したひとりの男性がいました。その人こそが、アイスキャンデーの老舗「北極」の創業者で今回、えびすくらつぷ巻頭インタビューにご登場いただく久保田光恵(現、代表取締役)さんのお父様。その愛情と製法へのこだわりは父から娘に、そして戎橋筋商店街の夏にしっかり受け継がれています。

INTERVIEW 北極 代表取締役 久保田光恵さん



「子どもや女性に冷たいものを!」と東奔西走。

「父は、私が小さい頃に亡くなりましたので、創業当時の話は母から伝え聞きました。お砂糖が手に入りにくい時代で、父はいろんなルートを探って材料を仕入れたそうです。1本20円、当時の物価からすると高級品。それにアイスを持ち帰るなんて発想、誰も持っていなかったと思うんです。ドライアイスを入れてあげれば、ミナミにきたお父さんやお母さんがお土産に持って帰れるでしょ。すると、子どもがよるこんで食べる。それで広がったのだと思います。そうそう、うちのアイスキャンデーのスティックが斜めに刺さっているのは何故だと思いませんか?これは、持ち帰り箱にアイスセッとした時、上部にドライアイスを入れるスペースができるようにと考えられたもの。アイスキャンデー1本のことですが、子どもや女性に冷たいものを食べさせてあげたいという思いから、さまざまアイデアが浮かんできたのでしょね。」

「この味を伝えていきたい!」と主婦から転身。

「実は、私、専業主婦でした。子どもを4人育ててきましたし、忙しい日々で稼業を継ぐなんて考えてもみませんでした。でも、ある時、社長にならないかという話があり、この味を伝えていかなければダメだなと思うようになったんです。一番下の子が高校生になっていましたし、思い切ってこの仕事に飛び込んだんです。でも働くのは性にあっていないようです。この夏は、韓国映画『あなたの初恋探します』とのコラボで「初恋アイス」を発売しますし、6月1日から「ピリケンアイスキャンデー」もラインナップに加わりました。大阪名物のミックスジュース風味。先日、ミズえびすばしの三人娘が食べへにきてくれて、「ミックスジュースをそのまま飲んでみたい」と絶賛してくれました。」



さつまいもアイスキャンデー 1本 120円
「さつまいも味」が買えるのは本店だけ。焼き芋をそのまま漬してアイスに閉じ込めた濃厚テイスト。

オリジナル湯呑み 1個 450円
昭和30年、北極・喫茶店時代の湯呑み。現在はグッズとして売られている。

オリジナルストラップ 1個 500円

ピリケンぬいぐるみ
スティックに足裏マークが片方現れたら、もう1本。両足ならぬいぐるみプレゼント。
ピリケンアイスキャンデー 1本 150円
戎橋筋本店と通天閣以外に、お取り寄せも可能。売上の一部は、東日本大震災に義援金として送られる。

戎橋筋商店街に、ほっとできる場所を。

「戎橋筋商店街は、昔は歩けないくらいの人、人、人。お店もずいぶん様変わりしましたね。でも、昔からある店もどんどん新しいことに挑戦していくべきです。ミナミにきたらやっぱり戎橋筋商店街に寄っていかないと、と思えるお店がもともと増えるといいと思います。昭和30年頃、うちは喫茶店もやっていましたね。「北極でかき氷でも食べて帰るか」という人がたくさんいました。自動ドアを早くから導入したので、車椅子の方や、年配の方も愛用してくださいます。その頃のイメージが私の頭には強く残っているんです。戎橋筋商店街にいらしたお客さんが、ほっとくつろげるスペースを復元するのがこれからの私の夢です。」



(取材・文)村上美香
北極 ☎0666413731

女の子ペンギんはなみちゃん
男の子ペンギんはえびすくん